

令和7年第4回 北海道議会定例会〔一般質問〕開催状況

開催年月日 令和7年12月3日（水）
 質問者 日本共産党 真下 紀子 議員
 答弁者 環境生活部長 谷内 浩史
 警察本部長 友井 昌宏
 教育長 中島 俊明

質問要旨	答弁要旨
三 ヒグマ対策について （一）緊急パッケージの活用と管理捕獲について ヒグマの人間の生活圏への侵入や農産物被害などに歯止めがかかっていません。国から緊急パッケージが示されましたが、効果的な活用はどう取り組み、ヒグマとの共生を目指す捕獲目標をどう達成するのか、知事に伺います。 （二）ハンターの育成、警察の協力等について 行政ハンター育成や警察への協力要請のほか、ライフル銃を使用した駆除が可能となりますが、熟練の訓練が必要です。どう取り組むのか。知事及び警察本部長に伺います。	（知事） ヒグマ対策についてであります。国の新たな「クマ被害対策パッケージ」では、警察・自衛隊との連携強化やガバメントハンターの確保・育成に向けた取組とともに、人の生活圏への出没防止対策の強化などが盛り込まれたほか、自治体のニーズに応じた柔軟な運用に努めるとされており、地域の実情を踏まえた取組を着実に推進していくことが重要です。 道では、「ヒグマ対策推進会議」において、パッケージの内容の情報共有を行うとともに、今後の取組を確認したほか、今定例会には、自衛隊の出動を想定した体制整備や警察官へのヒグマの生態などの事前研修、さらには春期管理捕獲の人材確保に向けた必要な補正予算を提案させていただいたところでございます。 道としては、今後、国の支援策も活用しながら、ヒグマ管理計画に基づく個体数管理や春期管理捕獲、ゾーニング管理を推進するなど、関係機関と連携し、人とヒグマとのあつれきの低減に向け、実効性の高いヒグマ対策を迅速かつ確実に進めてまいります。 （環境生活部長） 道警との連携などについてであります。道警察において、警察庁からの通達を踏まえ、ヒグマの駆除に対応するための必要な体制について、慎重に検討が進められている中、ヒグマ対策推進会議におきまして、道警察ともヒグマ対策に関する取組などについて情報共有を行うとともに、道としても今定例会には、警察官へのヒグマの生態などの事前研修に係る必要な予算を提案させていただいたところであり、今後とも、安全かつ円滑な緊急銃猟等の実施に向けまして、研修会開催への協力や道警察等と連携した実践的な訓練を積み重ねるなどしながら、ヒグマ対策に関する連携強化を図ってまいります。 また、ガバメントハンターに関しましては、今後、国が示す具体的な支援制度等を注視していくこととしているところでございます。 （警察本部長） ヒグマ対策への取組についてであります。道警察では、これまで、関係機関と連絡体制を確立するとともに、ヒグマが市街地に出没した場合には、自治体と連携し、タイムリーな情報発信、交通規制や住民の避難誘導、緊急銃猟への協力等を実施しているところであります。 こうした中、11月12日付けの警察庁からの通達により、ライフル銃を使用した熊の駆除を実施するための体制等について示されたことから、道警察においても、熊の駆除に対応するための必要な体制、運用について慎重に検討を進めているところであります。

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
（三）自衛隊への派遣費用等について 自衛隊への派遣費用等 2300 万円が提案されましたが、自衛隊への要請が決定されていない段階で予算計上する理由を伺います。また、自衛隊へ要請する際の判断基準は何か。知事に伺います。 （四）教育現場での対策について 児童生徒の安全対策のために、職員も保護者にも大きな負担がかかっています。子どもたちの安全確保および学校敷地内への侵入防止対策等はどう取り組むのか。教育長に伺います。	道警察といたしましては、引き続き、熊出没時の現場活動等を適切かつ安全に実施するほか、現場で活動する警察官のヒグマに関する知見を高めるため、関係機関と連携した教育等を推進するとともに、共同訓練を反復継続して行うなど、人身被害の防止を図ってまいります。 （環境生活部長） 自衛隊との連携などについてであります。秋田県の事例では、自衛隊がクマ捕獲用の箱わなの運搬や設置、さらには、見回りなどを行っており、道といたしましても、資機材の準備などこうした自衛隊の出動を想定した体制整備に必要な補正予算を今定例会に提案させていただいたところでございます。 また、非常かつ緊急時における国の支援としての自衛隊による対応の可否やその基準につきましては、先月、北海道東北地方知事会におきまして、国として明確にするよう要望を行っているところでございます。 （教育長） 児童生徒の安全確保の取組についてであります。道内各地において、市街地や住宅地等の人の生活圏までヒグマが出没している状況を踏まえ、各学校では、登下校時や屋外での活動等において、ヒグマに遭遇する可能性があることを想定し、教職員の安全確保を図りながら、児童生徒の安全対策に万全を期すことが重要でございます。 このため、道教委では、危機管理の手引にヒグマが出没した際には、屋外での活動を中止するなど学校の対応例を追加いたしますとともに、敷地内の草刈りやゴミの管理の徹底など、人の生活圏への出没防止策を示した国のマニュアルを参考にしよう周知するなどいたしまして、各学校における児童生徒の安全確保に取り組んできたところでございます。 今後も、各学校に対し、市町村関係部局や地元警察等と連携し、通学路や学校敷地内の見回り等に取り組むよう指導助言いたしますとともに、引き続き、環境生活部等と連携を図り、市町村教育委員会等に対する迅速な情報提供や各学校の安全対策の徹底に取り組んでまいります。